2023_1105「帰ってきたムササビ（動画）」日々の理科 3377 号

お茶の水女子大学　サイエンス＆エデュケーション研究所　田中　千尋

・

北軽井沢の落葉松林に設置した大型の巣箱は、本来はフクロウの営巣観察用です。しかし、環境も巣箱の大きさも巣箱口の直径も、すべてムササビにもお気に入りのようで、長年「フクロウとムササビが共同で」使用しています。野生動物なので、どちらかの匂いが残ればそれを嫌いそうに思えますが、この「共用」はもう何年も続いています。

ムササビは「植物食の哺乳類」で、主に松ボックリやクスノキの葉などを好みます。実際に巣箱のある林にはアカマツの樹があって、食べたあとの、中心部だけが残った松ぼっくりをよく見かけます。形状から「エビフライ」と呼ばれています。一方のフクロウは「肉食の猛禽類」で、主にネズミ類や野鳥を食します。

食物連鎖の順位から言えば、フクロウのほうが上で、ムササビは被捕食者となります。ムササビは大きいし夜間に敏捷に飛び回れるので、実際に成獣がフクロウに襲われることはほとんどありません。しかし、飛翔能力の低い幼獣は稀にフクロウの餌食になります。

ムササビの営巣（子育て）は夏と冬の２回、フクロウの営巣は早春なので、重なることはありません。フクロウがそれ以外の時期に巣箱に来ることは「偵察」以外にはまずないですが、ムササビは秋にも巣箱に入って昼間に休むことはよくあります。今回戻ってきたムササビはオスの成獣で、もう５日間も居座っています。朝５時ごろ森から戻ってきて、その後約１２時間ひたすら「爆睡」しています。何という幸せな生活でしょう！

（2023 年 11 月上旬／北軽井沢／東京から遠隔撮影）